

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 3 年目)

1. 研究課題

チベット・ヒマラヤ文明の史的展開の学際的研究

Interdisciplinary Studies on the Historical Development of the Tibeto-Himalayan Civilization

2. 研究代表者氏名

岩尾 一史

IWAO Kazushi

3. 研究期間

2015 年 04 月 - 2018 年 03 月 (3 年度目)

4. 研究目的

チベット・ヒマラヤ地域と周辺諸文明との間における歴史的交流を通じて伝播したと考えられる社会システム・宗教・儀礼・言語などの交流史の諸相に関する研究成果を本共同研究班で学際的に集積し、それによってチベット・ヒマラヤ地域の文明の史的展開を多角的に分析し、ユーラシア世界におけるその位置づけの再評価を行なう。7世紀以降、チベット・ヒマラヤ地域は周囲の先行文明の影響を受けつつ、独自の文明を展開させてきた。11～12世紀に仏教を完全に消化して以降、より強固となったチベット文明は周辺文化と交流を繰り返しつつモンゴル～東アジアにその影響力を伸張させた。さらに20世紀半ば以降もその発信力は欧米社会までにも影響を与えている。このような発信力と柔軟性をチベット文明は如何に獲得したのか、また周辺諸文明とどのように相克・調和してきたのか。その具体像を探るべく、多様な視点からチベットと他文明との相互接触の諸相を学際的に分析する。

This research team aims to re-evaluate the historical position of the civilization of Himalaya-Tibetan region in the context of Eurasian history. For this goal, the team accumulates latest academic knowledge of various aspects, such as a social system, religion, ritual and language, on historical and long-term cultural exchanges between the region and surrounding civilizations, and analyze its historical development from various angles. The Himalaya-Tibet region has developed its unique civilization under the influences of surrounding prior civilizations. Assimilating Buddhism in the society made Tibetan civilization more powerful and

since then it has widely expanded its influence towards Mongol plateau and Eastern Asia. Even after the middle of the 20th century, when PRC annexed the region, it still remains its influence so as to reach into Europe and the United States. One has to consider how the Tibetan civilization gained its powerfullness and flexibility, and also trace how it conflicted and found the way to be harmonized with surrounding civilizations. To make clear these issues, the project will analyze the various aspects of multi contact between Tibet and other civilizations.

5. 本年度の研究実施状況

●[研究会と研究報告]:本年度は合計で8回の研究会を行うことができた。班員それぞれの研究関心に沿った研究報告を依頼し、歴史学、文化人類学、言語学の各分野から、古代～現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究報告を聞くことができた。本年度の特徴としては、班員が主催あるいは関与したチベット学関係の学会や国際討論会が開かれて、本研究班の構成員との間での活発な研究交流が行われた。また例会においては議論の時間を出来るだけ多く取ったことにより、異分野からの情報提供・意見交換をより活発に行うことにも成功した。各回の具体的な内容は以下の実施内容を参照されたい。●[研究成果報告論集の編集]:本研究班の成果をまとめた研究報告論集『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』の編集会議を研究会開催時に複数回行い、年度末の刊行に向けて編集作業を進めた。

7. 本年度の研究実施内容

2017-04-15 牧夫の終末—消えていくチベットの牧畜業と改革を希む人々 発表者 別所裕介 駒澤大学

2017-05-20 青海ホシュート部のアムド支配の形成と清朝による解体・再編 発表者 岩田啓介 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所:学振 PD・非常勤

2017-06-17 『13 条章程』制定からみる清朝の対チベット政策 発表者 黒田有誌 龍谷大学:研究生

2017-07-15 越境する梵文写本:中世のヒマラヤ地域、南アジアにおけるモノと人との交流 発表者 加納和雄 駒澤大学

2017-10-21 A Phonological Sketch of a Tibetan Khams Dialect Spoken in Mingyong Village in the Yunnan bDe chen Tibetan Autonomous Prefecture. 発表者 池田 巧

2017-12-16 西夏国に於ける「抄」の構成と機能について 発表者 大西啓司 龍谷大学仏

教文化研究所客員研究員・非常勤

2018-01-20 『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』(パクサムティシン)のタンカに描かれたイメージ 発表者 大羽恵美 金沢大学文化資源学研究センター客員研究員・非常勤

2018-03-17 チベット語の未完了継続相の助動詞句の歴史的推移 発表者 星 泉 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所

8. 共同研究会に関連した公表実績

公開シンポジウム: **International Seminar on Tibetan Languages and Historical Documents** (9月7日7日於神戸市外国語大学): 科学研究費(基盤A)「チベット語最古層の形成とその構造推移ーデータベース解析による辞書と歴史文法の編纂」(代表者:武内紹人、課題番号:24242015)との共催。

10. 共同利用・共同研究の参加状況

| 区分 | 機関数 | 参加人数 | | | | 延べ人数 | | | |
|---------------|-----|-----------|-----|----------|----------|------------|-----|----------|-------|
| | | 総計 | 外国人 | 大学院生 | 若手研究者 | 総計 | 外国人 | 大学院生 | 若手研究者 |
| 所内 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 |
| 学内 | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 (1) | 0 | 1 (1) | 0 |
| 国立大学 | 5 | 6 (3) | 0 | 1 (1) | 3 (1) | 17 (7) | 0 | 0 | 6 |
| 公立大学 | 1 | 3 (2) | 0 | 0 | 0 | 13 (7) | 0 | 0 | 0 |
| 私立大学 | 10 | 10 (2) | 0 | 0 | 0 | 54 (10) | 0 | 0 | 7 |
| 大学共同利用機関法人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 独立行政法人等公的研究機関 | 1 | 1 (1) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 民間機関 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外国機関 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 (1) | 3 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 19 | 25 (7) | 1 | 1 (1) | 3 (1) | 98 (26) | 3 | 1 (1) | 13 |

※()内には、女性数を記載

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果報告論集『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』を2018年度末に刊行。